

182 与座の名の由来

今ぬ話^{なまはなし}やんてー、上座^{ういざ}ン殿^{とん}ぬ所^{ところ}にん、七家庭^{ななぢやう}、八家庭^{やちぢやう}、
村^{むら}ぐわーなやーに、また、アクンでいる所^{ところ}にんアクガー
ぐわーんでい有^あんよー、井戸^かぬ、うまぬ近^{ちん}辺^{びん}にまた、
十家庭^{じゅうぢやう}ぶかー。

また井戸^か尻^{じり}にんなー、むる少^{いふ}ぐわーなー、少^{いふ}ぐわー
なー、ふいとうかたまりなー、人^ちぬ住^しまとうたんでい
るばー。

あんしが、うつさがむる一^ち所^{ところ}んかい寄^ゆてい来^かに、あ
さーい、寄^ゆい座^ざ、寄^ゆたる座^ざんでいやーに、与座^{ゆざ}んでい
言^いんでいさ。

今の話だよ、上座ン殿の所にも、七世帯か、八世帯
の小さな村があつて、また、アクという所にもアクガー
グワーといつて有るよ、井戸が、その近辺にもまた、
十世帯とか有ったそうだよ。

それに川尻にも、少しずつ、少しずつ、ひとかたま
りずつ、人が住んで居たそうだよ。

それで、それらがぜんぶ一所に寄つて来て、それで、
寄い座、寄つて来たと言つて、与座と言うんだそうだ
よ。

字与座 城間ウシ